

ビジネスコーチング ～自立型人材を育成する～

➡ | ビジネスコーチングとは

コーチ (coach) は、もともと4輪乗用馬車の名前であり、動詞として使うときには、馬車に乗る人を望む地点まで送り届けるという意味をもっています。その後コーチは、受験準備を手伝うことやスポーツ競技においても使われるようになり、さらに1950年代になると、マネジメントの分野でもコーチという言葉が使われるようになってきました。1980年代になると、アメリカでは、重要なマネジメントスキルとして、コーチング (コーチの名詞形) が盛んに取り上げられるようになってきました。そこで、従来使われてきた分野と、ビジネスの分野で使う場合とを区別するため、しばしばビジネスコーチングと呼ばれるようになりました。では、なぜコーチングが日本でも注目され、マネジメントスキルとして要求されるようになってきたのでしょうか。

最近の人材育成では、自己啓発・自己学習を核とし、OJT (職場内訓練)、OFF-JT (職場外研修) を効果的に組み合わせて行う方法が主流を占めています。しかし現実的には、OJTにかかるウェイトが相変わらず大きいのが実情です。そしてOJTの場合には、コーチ役となる管理職が、自ら受けてきた訓練や業務経験、業務スキルをベースに部下の指導を行います。経営環境の激しい変化、ビジネススタイルの革新、成熟社会における世代間の価値観の違いなど、今までの経験が通用しなかったり、上手に活かせなかったりするケースが増えています。また管理職として忙しく、自己啓発・自己学習といっても、一人ひとりの部下に、何をどう学ぶべきかなのか。また、OFF-JTの選択型研修では、どんな研修を受けるべきかなのかなど、適切なアドバイスを行うことが難しい状況もあります。さらに成果主義が主流になるにつれ、短期間に問題解決を図る必要性がますます高まってきました。ここでは、個人の能力を最大限に発揮することを求められるのももちろんのこと、管理職と部下とが緊密な連携をとり、組織として解決に当たらなければならない案件が増え、部下の育成が急務の課題になっています。こうした状況にあっても、個人の性格や能力は、外部からの圧力や働きかけで簡単に変えることはできません。できるのは、部下の人格や能力を尊重し、現在を基点として、部下自らが成長して到達したいと望む地点へと、上手に導いてやることです。

➡ | コーチングの本質は何か

コーチングは、業務知識やスキルを中心に教えるわけではありません。コーチを受ける人材が本来もっている潜在的な能力を最大限に引き出し、伸びようとする意欲を上手に刺激してやるのがコーチングです。たとえば、部下が問題解決に悩んでいるとき、コーチは目標解決の具体的な方法について教えたり、自分の見解を述べたりはしません。部下への丹念なヒアリングやコミュニケーションを通じて、問題解決への取り組み方や、解決への意欲を高めるためのアドバイスのみを行います。コーチングの基本は、あくまでも本人が自発的に考え、問題解決や能力開発に取り組むことを基本的な考え方としています。このことは、上から与えられたものに取り組む場合と、自発的に考えて取り組む場合を比較すれば、後者のほうが、当然高い達成意欲が生れることは、容易におわかりになると思います。コーチングは、まず人材の可能性を信じることから始まります。一人ひとりに多様な能力や個性があり、大きな成長性を秘めていることを認め、その人材にふさわしい業務を任せ、適切な目標を与えます。この任せ方や与え方も、人材の適性を見て個別に行い、さらに適切なサポートを個別に行います。この方法は、一見時間がかかるようですが、最も高い効果を上げます。コーチは、このプロセスを必要なとき、必要に応じて、日常業務の中やミーティングを通じて行います。こうして見ると、コーチングの本質は、上の職位にある者が意識して部下との人間関係のあり方を変えようとし、マネジメントに必要なコミュニケーションスキルを上達させることにあります。コーチングは、人間的にある程度成熟した人がテクニックを習得すれば、比較的容易にコーチ役を務めることができます。そこで、企業内で上の職位にある社員からスタートし、順次コーチングのスキルを習得していけば、自立型の人材が次々と育ち、自律的に目標管理を実現する組織を築ける可能性があります。コーチングの採用は、差し迫った問題解決などに対しては、無力かもしれませんが、日常の業務プロセスにメソッドを組み込むことによって、組織としての強化を図ることができます。(^^)／

アイ・シー・キューブでは、企業の競争力を高め、その成長と繁栄を支援する為の情報を提供する中小企業向けのセミナー及びイベントを多数主催しています。是非ご参加頂きビジネスにお役立て下さい。

株式会社アイ・シー・キューブ

水戸市南町3-3-43小林ビル5F

Tel: 029-228-0116

Fax: 029-233-0882

URL: <http://www.ic3.co.jp/>

Mail: info@ic3.co.jp

FAX版IC3通信を停止されたい方は、お手数ですがこの原稿を、

FAX: 029-233-0882

までFAXしてください。

()

のFAXを停止してください。